



生徒会選挙を実施し、第49期生徒会の準備を進めています。

9月17日(木)に、第49期生徒会役員を決める立会演説会と投票を実施しました。立候補者や応援者は、夏休み期間を使って立会演説会や選挙運動の準備をしてきました。9月15日(火)から始まった選挙運動では、各候補者が朝の登校時に、太宰府中学校をもっとよくしたいという思いを伝えていました。また、立会演説会では、各候補者が自分の考えや思いを自分の言葉で、しっかりと全校生徒に訴えていました。応援者は各候補者のすばらしいところを紹介することができていました。この選挙によって新しい生徒会役員が決定し、第49期生徒会としての活動が始まります。これから、3年生から1、2年生への引継ぎを少しずつおこない、生徒会リーダー研修、生徒総会を経て新たな生徒会活動に取り組んでいきます。



1年生は、自然教室の取組の中で成長することができました。

9月3日(木)、4日(金)の1泊2日で、1年生は自然教室を実施しました。本年度は、佐賀県にある北山少年自然の家に行きました。実行委員が中心となって約3か月間準備を進めてきました。自然教室を実施する目的は、「自然に親しみ環境への興味・関心を高める」「仲間との人間関係を形成し親睦を図る」などいくつかありますが、最も大切な目的は、「集団生活の中で、自主的・実践的に行動しようとする態度を身に付ける」ことです。私は、生徒のみなさんに、自然教室の中で次の2つのことを期待することを伝えました。



- 「自律する」ために、目的、行程をしっかりと把握し、自分のやること(係、片付けなど)を自分でする。
- 周りを見て、できていない人がいたら教え合い、助ける。先生から言われる前に、自分たちで何とかする。

この2つを達成することは、生徒自身が実行委員を中心に考えたスローガン「We are minions! ~我らは主人公~」に込められた「**団結**」「**思いやり**」「**協力しあえる**」「**笑顔**」という生徒の目標と同じであると思いました。当日は、天候による時間変更等はありませんでしたが、計画していた活動を実施することができました。生徒同士で声をかけ合う姿が多く見られ、1年生のこれからの成長が期待できる自然教室となりました。

2年生の代表生徒が、太宰府市戦没者慰霊祭に出席しました。

9月27日(日)にプラム・カルコアで実施された太宰府市戦没者慰霊祭で、本校の代表生徒が、「追悼のことば」を述べました。2年生が平和学習として、日本遺族会の方が実施されている「語り部事業」を通じて、戦時中の経験を直接聴く機会があり、そのご縁で本校の代表生徒が太宰府市戦没者慰霊祭の中で「追悼のことば」を述べることになりました。代表生徒が慰霊祭で述べた「追悼のことば」の一部を紹介します。



先日の平和学習では、日本遺族会の方のお話を聴きました。実際に戦争を経験された方のお話を聴いて、あらためて戦争の悲惨さを感じ、「戦争は絶対にしてはいけない」と強く思いました。戦争は、今まで当たり前にあった環境、生活、日常を変えてしまうと同時に、「人の心」までも変えてしまうのだと思いました。私は、戦争についてまだ知らないことがたくさんあります。これから平和を願う気持ちを大切に、戦争の傷跡が今も残る場所を訪れるなどして、戦争について、もっと深く学び、今ある平和な生活を当たり前と思わず、大切にしていこうと思いました。平和な生活は、当たり前誰かが守ってくれるのではなく、一人一人が協力してつくっていくものだとは私は考えます。家族と過ごす時間、友だちと笑い合い、「また明日ね」と言い合う日々、そのような当たり前を全て奪ってしまう戦争を決して起こしてはいけないと思います。私一人ができることは、小さく些細なことかもしれませんが、それでも、相手を思いやり、自分との違いを認め、争うのではなく、話し合うことを選び続けていきたいです。

現在の小・中学生は、戦時中の体験を直接聴ける最後の世代になるかもしれません。私も子どもの頃、戦争を経験された方の話を直接聴くことで、「戦争を決して起こしてはいけない」と思いました。みなさんには、大人になったとき、日本だけでなく世界の平和維持に貢献できる人になってほしいと思います。

ニュージーランドの生徒との交流を実施しました。

10月2日(金)に、ニュージーランドにあるタイヌイ・フル・プライマリースクールの生徒28名が本校を訪問しました。全校生徒との交流会をおこなうとともに、教科の授業、給食、掃除を一緒に経験してもらいました。生徒同士すぐに会話をする姿が見られました。本校生徒にとって、日頃学習している英語を使ってコミュニケーションを図ることができるかを確認するとともに、外国の同世代の人々と直接触れ合うよい機会となりました。また、ニュージーランドの生徒は、本校生徒宅にホームステイをしました。ホストファミリーを引き受けていただいた保護者の皆様に感謝いたします。

